

令和3年度養豚経営安定対策補完事業 養豚経営における優良事例調査（平成29年調査フォローアップ）

～日本の養豚を、もっと魅力的に～

I 調査の概要

1. 調査先の名称 熊本興畜株式会社（代表取締役 石渕 大和 氏）
2. 調査先の所在地 熊本県菊池市七城町水次 1289
3. 調査日 令和4年3月9日
4. 同行者

委員：細川 拓也（秋田県）、新村 嘉久（新潟県）、岡部 雄太（群馬県）、
瓜生 陽一（愛知県）（敬称略）

豚熱及び新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度は優良事例調査が実施できなかった。このことを受け、今年度の検討会では従来とは異なった方法でも調査を実施出来ないか検討した。その中で、平成29年度の優良事例調査先である石渕委員（熊本県、熊本興畜株式会社）のその後の農場拡大が進んでいることを受け、フォローアップ調査を実施することとした。

代表取締役である石渕委員より会社概要、経営理念、将来展望等について説明を受け、意見交換会を実施した。実際に阿蘇郡小国町にある2農場（小国下城繁殖農場、小国黒渕肥育農場）の農場外観及び飼料工場を見学した。

II 調査の内容

<経営理念>

1. 世界基準で戦う豚肉工場～農場を魅力的に！～
生産システムにこだわり、日本トップクラスの高い設備生産性を実現して、業界の先導者となる。具体的目標は出荷枝肉重量でベンチマーキング全国一位。
2. 「人で豚を育てる」ではなく「豚で人を育てる」～人を魅力的に！～
個人の潜在能力を伸ばし、高い労働生産性を発揮する。
具体的目標は1従業員あたりの売上1億円、都市部並の高所得と完全週休2日制を実現。

3. 養豚で熊本を復興させる～地域を魅力的に！～

田舎にありながらキラリと光る事業体となり、畜産で地域を魅力的にする。
具体的目標は事業規模を拡大して、地域貢献度をより高める。

< 前回調査からの変化 >

- ・平成 29 年当時に訪問した菊池市の七城農場は母豚 600 頭規模の一貫経営のまま、令和 2 年に新規で阿蘇郡小国町に母豚 1200 頭の下城繁殖農場、子豚 14000 頭の黒淵肥育農場、飼料工場を立ち上げた。
- ・七城農場から繁殖・肥育・飼料工場までは車で 1 時間ほどの距離にある。
- ・資材が高騰し始めた 3 年前に規模拡大を決め、土地買収、畜舎設計、資材調達に代表自ら奔走し、小国農場を新設した。
- ・飼料は人工乳前期、中期だけ配合飼料を購入している。子豚、肥育豚は、自社の飼料工場にて自家配合を行っている。月間製造量は 1,000t。
- ・マイスター制度という、専門の作業員を繁殖・種付け、分娩、WtoF（ウイントゥフィニッシュ）各部門に配置。

< 今後の展望 >

- ・長期展望としては 2030 年までに母豚 1200 頭規模の 2 サイトを 3 ユニット、母豚 3600 頭規模のスリーセブンシステムに拡大する計画を進めている。
- ・自社 GP 農場と自家採精による精液供給（AI センターの設置）



左：下城繁殖農場と聞き取りの様子



右：黒淵肥育農場



左：黒淵肥育農場の豚舎とラグーン 右：調査メンバーと石淵氏（中央右）



左：飼料工場とタンク。この工場で下城・黒淵農場の自家配合飼料を製造。

中央：飼料粉碎機

右：飼料は単味ごとに4半期ごとに各社から価格表もらい安価なものを購入。